

2026年

Kashiwagi Information

アジア・アジアパラ 競技大会に向けて！

「東山公園テニスセンター」プロジェクトの裏側に迫る

競技大会に向けての改修工事は、各部署の緊密な連携により、複雑な設計や特殊設備といった困難を乗り越え、無事に完了しました。本記事では、かつてない課題に挑んだ各担当者の工夫に加え、壁にぶつかりながらも現場で逞しく成長した若手の姿や、互いを支え合った仲間への感謝、そして利用者目線を貫いた施工への熱い思いに迫ります。

～アジア・アジアパラ競技大会とは～

アジア競技大会およびアジアパラ競技大会は、4年に1度開催されるアジア最大の国際スポーツの祭典です。当社が携わった東山公園テニスセンターは2026年の愛知・名古屋大会の舞台の一つとして選ばれました。トップアスリートたちが集結し、熱戦が繰り広げられます。

施工管理部 係長 N・Kさん

現場での苦労と達成感

特殊設備への対応

「アジア・アジアパラ競技大会」に向けた市や関係者からの要望への対応に苦労しました。**集団補聴システムや音声案内、競技用大型照明など、特殊な設備**が多数あったためです。経験不足でしたが、社外やメーカーから情報をいただき、周囲の協力を得て乗り越えました。何より「完成してよかった」と感じました。

現場を共にした仲間へメッセージ

猛暑の屋外で、100m超の太いケーブルを配線する過酷な作業も、皆で力を合わせて乗り切りました。経験が浅く、技術や知識面でご迷惑をおかけした私を支えてくれた、社内や協力業者の皆様へ深く感謝しています。



自身のアイデアを形に

工夫を凝らし、要望に合わせて施工できるのがこの仕事の醍醐味。私個人の発案ではなく、皆で話し合った方針を一つひとつ形にしました。**照明を初点灯した際、施主様からの「良いものができた」という言葉**が心に残っています。この施設が多くの方に長く使われることを願っています。

施工にかける思い

施工管理部 課長 I・Hさん

現場での苦労と達成感

複雑な設計と迫る時間

今回の現場は形状が非常に複雑で、当初は設計図通りに配線、配管ルートを確認できませんでした。そのため、行政と通常の倍以上のやり取りを重ねながら設計を再考するなど、検討や資料作成に追われ深刻な時間不足に。

その窮地を救ってくれたのが当社工事部です。状況を汲み、未完成の図面でも現場で随時確認しながら臨機応変に進めてくれたおかげで、無事に工事を納めることができました。

現場を共にした仲間へメッセージ

工事部の献身に感謝！

例えば、実物を見た担当者様から急な仕様変更を求められた際も、嫌な顔をせず丁寧に対応してくれるなど、現場の皆さんの柔軟な対応と高いプロ意識には、本当に救われました。こちらの手が回らない細部まで確認を重ね、お客様の要望を誠実に形にしてくれた仲間の存在には、感謝の言葉しかありません。



施工にかける思い

ユーザー目線を貫く仕事

私が最も大事に考えていたのは、**今後この施設を管理、運営される方々の使いやすさです。**照明の明暗差が出ないようにするなど、細部まで配慮を行き届かせました。仕事の根幹は**誰かに喜んでもらうこと。**

多くの人が集まる施設だからこそ、常に使い手の目線に寄り添う施工を届けることを、これからも大切にしていきたいです。

工事部 係長 Y・Yさん

現場での苦労と達成感

経験を重ねる中で若手たちが少しずつ変化

最も大変だったのは、新築の現場が初めてとなる若手社員への教育や接し方でした。最初は、思い込みで作業してしまう場面もありましたが、経験を重ねるうちに、徐々に理解が進んでいたようでした。今は私自身、まだ施工を終えた実感がありません。今後、実際に施設が使われているのを見たとき、初めて達成感が湧いてくるのでしょうか。

現場を共にした仲間へメッセージ

とにかく怪我人を出さず、誰一人欠けることなく工事を終えられて安心していきます。共に現場を乗り越えた仲間たちには、改めて「お疲れ様です」という感謝を贈ります。



施工にかける思い

私たちの仕事は、建物に名前が残るわけではない陰の仕事です。

作業中も、誰かの役に立っている実感は湧きにくいもの。しかし、**手掛けた施設が世界的な大会で使用されるのを目にすれば、記憶に残る確かなやりがいと喜びを感じられると思います。**

工事部 H・Sさん

現場での苦労と達成感

明かりが灯った瞬間の喜び

最も大変だったのは、約4か月に及ぶ配線工事です。他業者との調整や工程変更が重なり、日々対応に追われました。夏の埋設配管も炎天下で過酷を極めました。熱中症対策を徹底して全員で克服。すべての工程を終え、建物の照明が点灯した瞬間の安堵感は忘れられません。

現場を共にした仲間へメッセージ

初めての現場で、手探り状態の私を救ってくださったのが、施工管理の担当者や先輩方です。疑問は恥ずかしがらずに聞くよう促してくださり、それから怖くても逐一聞くようになりました。**だからこそ、現場を通して大きく成長できたのだ**と思っています。

完成した施設が使われている様子を見るのは、何よりの喜びです。

苦労の連続でしたが、そこで得た経験のすべてが、自身の確かな糧となっています。

今後、テレビなどでこの場所が映った際は、「**自分が手掛けた施設だ**」と、家族や友人に誇りを持って伝えるつもりです。

施工にかける思い



工事部 M・Tさん

初めての挑戦と苦労

新築現場での試行錯誤

入社3年目の私が一番苦労したのは、1つの工区の配線を自分1人で任されたことです。公共施設の修繕工事は経験してきましたが、**新築工事に携わるのは今回が初めて**でした。何もない状態から配線ルートを考え、他の業者と連携を取りながら工程に遅れないように作業を進めなければなりません。最初はわからないことばかりで戸惑いましたが、上司からアドバイスをもらい、なんとか無事に工事を乗り切ることができました。

現場を共にした仲間へメッセージ

失敗を恐れないための言葉

現場で特に心に残っているのは、私が大きなミスをして落ち込んでいたとき、施工管理を担当する課長から「**ミスをしてもいいから、その分しっかり仕事を覚えろ**」と、声をかけていただいたことです。この励ましのおかげで前向きな気持ちを取り戻すことができ、カシワギ電気の一員として成長してこうと決意を新たにしました。

自分が手がけた場所への愛着

1年間、厳しい現場で必死に取り組んできたからこそ、無事に完成したこの施設を利用する方々に、大切に使うしてほしいと願っています。なかでも、**私が一から配線を考え、無事に電気がつくように仕上げた2階のトイレには特別な思い入れ**があります。今後機会があれば、人々の役に立っている様子をぜひ見に行きたいと思います。

施工にかける思い

